

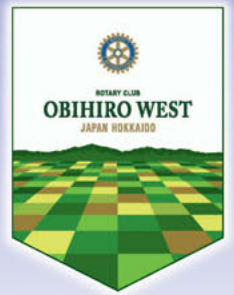


# 帯広西ロータリークラブ

## 第2078回例会

### 2015.2.13

# 会報



■RI第2500地区テーマ■

誠心誠意

Service With Sincerity



■クラブ・テーマ■

「絆を重んじ、信じ合い、輝やけるクラブを目指そう」

## 帯広5ロータリークラブ・芽室ロータリークラブ・音更ロータリークラブ 合同例会

### 総司会会

帯広北RC 及川副SAA



### ゲスト紹介

帯広北RC 細川吉博会長

上智大学 アジア人材養成研究センター所長  
石澤 良昭 様

### 会長報告

帯広北RC 細川吉博会長

皆さんこんにちは。今日はお足元の悪い中、多くのロータリアンの皆様が、合同例会にお集まり頂きまして、誠にありがとうございます。今日、講師としてお呼びした石澤良昭様ですが、世界を理解するという中で、誰が講師に良いだろうかと考えた時、先ず思い浮かんだのが、石澤教授でした。石澤先生は帯広出身の上智大学の前学長でして、アンコール・ワットの遺跡の発掘にご尽力されている方です。そういった意味では石澤先生には、この帯広にお帰りなさいという気持ちです。ようこそお越しくございました。石澤先生に最初をお願いしたときは、ちょうどカンボジアでお仕事をされていて、この時期にはちょっと来れないと言われて、どうしようか悩んでおりました。帯広でのロータリーでお話しをするということで、わざわざこれだけのために今回帰ってきて頂きました。昨日、カンボジアからバンコクに入って、夜中の飛行機で今日の早朝、羽田に着き、それから帯広という道のりでした。実は私たちと致しましては、一昨日の天気予報では晴れということで全然心配してはいなかったのですが、昨日あたりから天気が変わってきまして、心配でなかなか寝れないような状況でした。

石澤先生のお仕事について少しご紹介します。石澤

先生はアンコール・ワットの碑刻文解読という石に刻まれた文字の解読を中心と致しまして、50年間に渡りまして、アンコール・ワットの遺跡の調査研究、そして現在は、保存修復更には人材育成に従事されております。2001年に考古学現場研究のアンコール・ワットの地中から274体の仏像を発掘いたしまして、それまでの学説を塗り替えるような世紀の大発見となっております。そういった中で、その時のお話を今日聞かして頂けるのかと思っております。ぜひ私たち帯広・十勝の人間と致しましても、なかなか聞けそうで聞けないお話を聞ければと思っております。そして世界を皆さんと共通に理解していければと思っております。今日はどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございます。

### 会務報告

帯広北RC 石岡幹事

- ①・帯広南RC、2月16日(月)の例会は2月13日繰上げ例会と致します。  
・帯広RC、2月18日(水)の例会は2月13日繰上げ例会と致します。
- ②帯広東RC、夜間通常例会開催のご案内  
日 時 平成27年2月17日(火)午後6時30分  
場 所 アパホテル帯広駅前
- ③帯広西RC、創立記念夜間例会開催のご案内  
日 時 平成27年2月19日(木) 午後6時30分  
場 所 北海道ホテル
- ④帯広北RC、創立記念夜間例会開催のご案内  
日 時 平成27年2月20日(金) 午後6時30分  
場 所 ホテル日航ノースランド帯広
- ⑤RI2500地区第6分区 IM開催のご案内  
日 時 平成27年3月14日(土)  
場 所 北海道ホテル  
登録受付 14:00~14:30  
開会式 14:30~15:10  
特別講演 15:20~16:50  
閉会式 17:00~17:20



会 長 平田 利器  
幹 事 天野 清一

副会長 佐々木和彦  
副会長 飯田 正行

会場監督理事 堂山 啓太  
プログラム委員理事 久保 且佳

発行：広報委員会  
委員長 森 房明 (副)立崎 貴之



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

懇親会 17:30~19:00

特別講演

- ・ロータリー米山記念奨学生OB  
ジャンチブ・ガルパドラッハ 様
- ・ロータリー米山記念奨学会前事務局長(東京北RC)  
坂下 博康 様



会場の様子

## ◆プログラム

帯広北RC 坂井国際奉仕委員長



## 講演 「アンコールワットを掘る -日本人歴史学者の挑戦-」

上智大学 アジア人材養成研究センター所長 石澤 良昭 様



カンボジアの村々を歩き、遺跡を巡りながら、私はふと立ち止まって自問するときがあります。「自分は何につき動かされて歩いてきたのだろう」と。1961年大学卒業間近に、外国語研修で立ち寄ったカンボジア、以来50余年、それはひとことでは言えるものではありませんが、アンコール・ワットに関心をお寄せくださるみなさまを思い浮かべるとき、次の三つの願いが自分の中にあることを感じます。

第一に、「アンコール・ワット研究」の報告は分かりやすく上智大学アンコール遺跡国際調査団（ソフィア・ミッション）がこれまでに取り組んできたアンコール・ワット研究そのものは、多くの謎ばかりで、わからない歴史が知的好奇心をかきたてております。あのお寺は何か、石像大伽藍、約80メートルに及ぶ大回廊の浮彫り、笑みをたたえた女神たち、身舎の装飾など尽きせぬ魅力があり、当時のカンボジアの人たちの生命の営みの中で、また、長い歴史展開の中で、それらはどんな意味があったのでしょうか。私は、それらの謎を普通の言葉で語り、みなさまに分かっていただきたいと願ってきました。私の碑刻文解説や歴史の一部解明を含めて、学問や研究成果というものは、いつもそのような形でみなさまに分かっていただき、現地カンボジアへ還元されていくべきものと考えております。

### 第二に、「生きる喜び」に溢れるカンボジア

たわわに実った稲穂、ゆったりと流れる時間、村の小寺で捧げられる敬虔な祈り、カンボジアではこんな日常生活が続いていました。村では生きる喜びに満ち溢れています。みんな意気軒昂なのです。日本人から見ると、貧しいのになぜそんなに元気なのか、合点がいきません。経済的にいえば貧困ですが、村人は比較的低い消費量で高い満足を感じているのでしょうか。人々は圧迫感や緊張

感なしに毎日をおくり、「悪いことをせず、善きことを実践し」という仏教の教えを実行しているように思います。どこでも一般的に物質的資源には限りがあるのだから、自分が必要とするわずかな資源で満足感を覚える村人は、資源をたくさん使う人たちより相争うことが少ないわけでありませぬ。その物差しが決して物質主義ではなのです。「生きる喜び」は昔も今も変わりませぬ。古代・中世カンボジアでは、地域で獲れる資源を使って最も合理的な日常生活が営まれておりました。余剰資源は、功德として寺院建立に捧げられました。

第三に、「ソフィア・ミッション」は困っている人を見捨てない

私たち調査団はソフィア・ミッションを実践する活動部隊であります。上智大学は2013年に創立100周年を迎えました。その精神は「他者のために、他者とともに生きる (Men and Women for Others, with Others)」であります。ソフィア・ミッションは「他者」であるアジア人の「隣人」のところへ出かけて行き、「仲間」となって一緒に奉仕活動を実施しております。カンボジアでは1970年から24年間にわたり内戦が続き、虐殺が150万人以上におよび、人々はすべてを失い、誰もがゼロからの再出発でした。ソフィア・ミッションは困っている人を見捨てない活動です。私たちは内戦中の1980年からカンボジアへ出かけ、現地において人材養成活動を実施し、カンボジアの皆さんが勇気と希望を取り戻すお手伝いを致しております。特別に「カンボジア人による、カンボジア人のための、アンコール・ワット修復」を掲げ、上智大学大学院は優秀なカンボジア人留学生を計画的に受け入れました。アンコール・ワットはカンボジア民族の心の支えであると同時に自信を取り戻すエネルギー源でもあります。ソフィア・ミッションは、アジアの仲間と一緒に活動し、21世紀のアジア市民を育てるという目標に向かって、ささやかですが、奉仕活動を続けております。

## ■謝辞

帯広西RC 平田会長

